

鳥羽の海を わたしたちで守っていきこう

鳥羽清港会事務局・環境課 ☎ 25 1147

今私の持っている知識を伝えたいと思うし、
鳥羽の人のために勉強し続けたい

鳥羽市水産研究所
岩尾 豊紀 さん



このたび、鳥羽清港会と鳥羽市の共同企画第2弾として鳥羽市水産研究所の岩尾豊紀さんに、今問題となっている気候変動がもたらす海藻への影響と、それに対する取り組みについて伺いました。

鳥羽の海ではどのようなことが起こっていますか

世界の海では、『磯焼け』が問題となっています。

磯焼けとは、大型の海藻の群落である藻場が無くなってしまふ現象のことです。

三重県では、熊野市、尾鷲市、南伊勢町、志摩市の大きな藻場はほとんどなくなっています。ヒジキのような海藻も育たなくなっています。

鳥羽市でも、昨年、坂手島近海にあった大きな藻場が消えてしまいました。磯焼けの原因はさまざまですが、主に海洋の温暖化や人間の活動が影響を与えていると言われているほか、鳥羽海域に高水温と異常潮位をもたらす『黒潮の大蛇行』の影響を4年ほど受けていることも原因のひとつであると考えられます。

海苔養殖の被害は深刻

海苔養殖の場合、秋に海水の温度が下がらないことが原因で、育ち始める時期が遅くなったり、冬に海水が温かいことで、海苔が「ああ、春が来たのかな」と感じ、生長が遅くなってしまうことがあります。こうしたことで、市場にも影響が出ています。海洋の温暖化は、海藻だけ

でなく、魚にも影響します。

これまで寒くなったら、餌を求めて南へ移動していた魚たちが、移動しないで止まってしまうます。そうなると、魚たちは餌となる海苔を食べつくしてしまうのです。

菅島海苔屋さんは、魚に海苔を食べられて深刻な被害を受けています。

水産研究所の取り組み

鳥羽の海藻にも気候変動の影響が見られることから、水産研究所では、鳥羽の海に適した養殖用海藻種苗の研究を行うほか、鳥羽の海のことを伝えることが重要と考え、小中学生へ向けた海洋教育に取り組み始めたところです。

子どもたちは生き物の住む場所（山や川、海など）へ行き、観察し、その生き物の反応を見るだけでなく、友だちや先生の反応を見て感じる体験をすることで、社会を学ぶことができます。

社会に出たら、自分の置かれた環境を自分の見方で分析しながら仲間と協力して最大限の力を発揮することが求められます。子どもたちに変わりがゆく鳥羽の海について伝えることが、海を守っていくことにつながっていくと思いま

すし、同時に社会で生きる力を育む海洋教育を提供していきたいと思っています。

海と地球はつながっている

みなさんには、海産物を食べるときに、どんな海で泳いでいたのか。それは旬のものか。興味を持ってもらいたいです。

今ある海は、全て私たちの生活の結果であることを知ってほしいと思います。

鳥羽の海藻について語られている動画はコチラ



第3弾は鳥羽市立海の博物館 平賀大蔵さんにお話を伺います

新規会員募集中!

鳥羽清港会では、一緒に鳥羽の海を守っていく企業、団体を募集しています。

申込方法など詳しくは、鳥羽清港会ホームページをご覧ください。

